

教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価

(平成22年度対象)

報告書

平成23年8月

大分市教育委員会

目次

はじめに

1 教育に関する事務の管理及び執行の状況についての 点検及び評価の実施について	1
2 報告書の見方	2

第I章 教育委員会の点検・評価

1 教育委員会の活動及び運営状況	
(1) 教育委員会委員	4
(2) 教育委員会会議の開催状況	4
(3) 教育委員会会議での審議状況	4
(4) その他活動状況	8
2 「大分市教育ビジョン」点検・評価結果	
重要施策の体系	11
(1) 豊かな人間性の創造	
① 幼児期における教育の充実	12
② 学校教育の充実	14
③ 社会教育の推進と生涯学習の振興	18
④ 青少年の健全育成	20
(2) 人権を尊重する社会づくりの推進	22
(3) 個性豊かな文化の創造と発信	24
(4) スポーツ・レクリエーションの振興	26
(5) 本市教育を推進する教育委員会の充実	28

第II章 学識経験者による意見

金子 進之助 別府大学短期大学部学長	30
草間 朋子 大分県立看護科学大学学長	31
山崎 清男 国立大学法人大分大学教育福祉科学部教授	32

はじめに

平成19年6月、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正がなされ（平成20年4月施行）、各教育委員会において、法の規定に基づき、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

大分市教育委員会では、平成20年5月に本市教育行政の方向や施策を明らかにする「大分市教育ビジョン」を策定し、学校、家庭、地域社会が連携し、一体となった教育の推進を図っています。

こうした取組の実施に当たっては、市民の皆様に、その進捗状況を公表する中で、各々の施策が確実に実施されているか、どのような成果があるかなどを点検・評価することにより、教育行政の改善を図るとともに、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進することが重要であると考えています。

そこで、本市教育委員会では、「大分市教育ビジョン」の各施策の取組状況に関する点検・評価をもって、「教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価」とし、ここに報告書をまとめました。

1 教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価の実施について

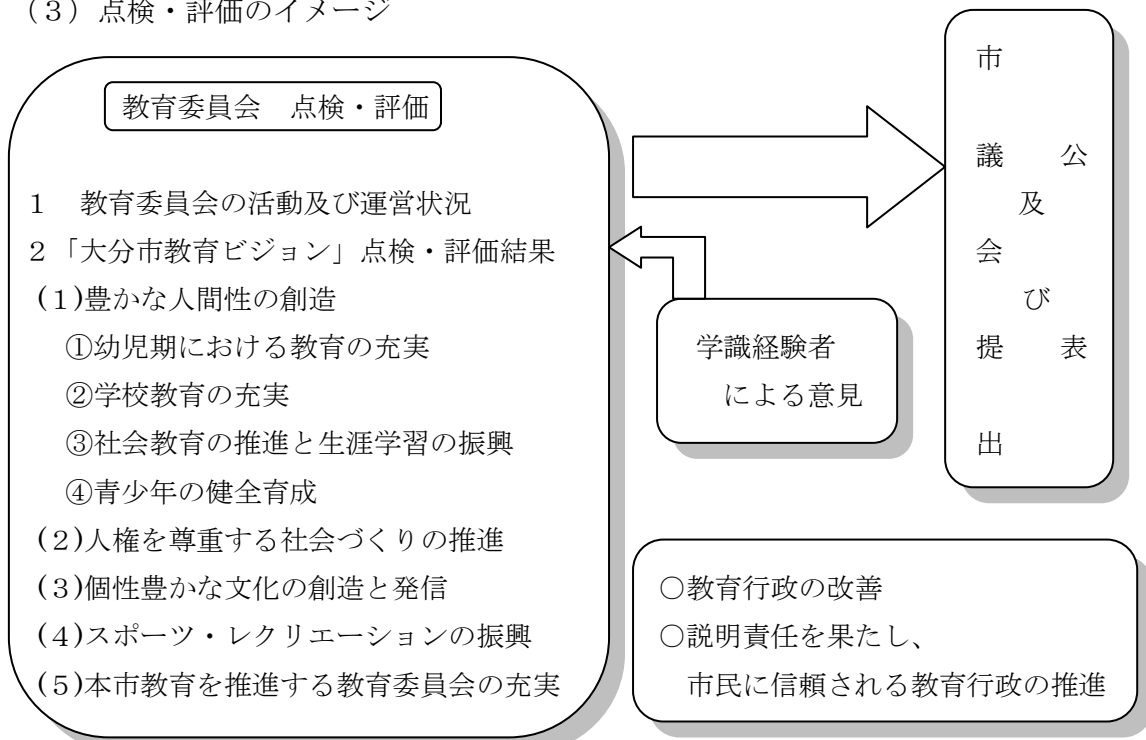
(1) 目的

- ① 大分市教育委員会が行う教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価を実施することにより、教育行政の改善を図る。
- ② 点検・評価の結果に関する報告書を作成し、これを大分市議会に提出するとともに、公表することにより、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進する。

(2) 実施方法

- ① 点検・評価は、教育委員会の活動及び運営状況並びに「大分市教育ビジョン」に示す施策を対象とする。
- ② 点検・評価を行うに当たり、客観性及び透明性を高めるため、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図る。
- ③ 教育委員会は、点検・評価の結果を取りまとめた報告書を作成し、大分市議会に提出するものとする。また報告書は公表する。

(3) 点検・評価のイメージ



2 報告書の見方

本報告書は、次の2つの内容（第Ⅰ章・第Ⅱ章）から構成しています。

第Ⅰ章 教育委員会の点検・評価

1 教育委員会の活動及び運営状況

教育委員会会議の開催状況、教育委員会会議での審議状況、その他活動状況等について記載しています。

2 「大分市教育ビジョン」点検・評価結果

重点施策について、以下の項目立てから点検及び評価をしています。

①目標

②取組の進捗状況

「重点施策」の実現に向けて展開している「具体的な施策」について、「23年度に向けた22年度における取組の進捗状況」を説明するとともに、4段階評価を行っています。

<評価基準>	A・・・計画どおり順調に進んでいる
	B・・・概ね計画どおり進んでいる
	C・・・計画がやや遅れている
	D・・・計画が大幅に遅れている

③平成22年度の成果や課題

成果を●で、課題を▲で表記しています。

第Ⅱ章 学識経験者による意見

点検・評価の客観性及び透明性を高めるとともに、知見を活用するため、教育に関し学識経験を有する方の意見等を聴取しました。

ご意見をいただいた方々は、次のとおりです。

(50音順 敬称略)

氏 名	所 属 等
金 子 進之助	別府大学短期大学部学長
草 間 朋 子	大分県立看護科学大学学長
山 崎 清 男	国立大学法人大分大学教育福祉科学部教授

参考 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

第 I 章 教育委員会の点検・評価

1 教育委員会の活動及び運営状況

1 教育委員会の活動及び運営状況

本市教育委員会は、策定した「大分市教育ビジョン」の基本理念の実現に向け、明日の大分を担う人材育成と郷土の豊かな伝統・文化を推進し、本市教育の振興に努めています。

各教育委員については、毎月の定例会議や臨時会議のほか、先進地視察や事務局と連携しながら最新の教育情報等に関する研修会への参加、学習会の開催、学校訪問、施設の視察、さらに校長との教育懇談会を開催するなどして自己研修・情報収集を行う中で、幅広い視点からの議論並びに積極的な活動を次のとおり行ってきました。

(1) 教育委員会委員

(H23.3.31 現在)

職名	氏名	就任年月日	委員現任期
委員長	若杉 順子	H15. 5.14	H19. 5.14～H23. 5.13
委員長職務代理者	高橋 英子	H19. 5. 8	H22. 6.28～H26. 6.27
委員	角山 光邦	H19.12.17	H21. 7. 8～H25. 7. 7
委員	小林 達也	H20. 3.26	H20. 7. 9～H24. 7. 8
教育長	足立 一馬	H19. 5.14	H19. 5.14～H23. 5.13

(2) 教育委員会会議の開催状況

原則として毎月1回の「定例会」、必要に応じて「臨時会」を開催します。

平成22年度は、合計で21回開催しました。

- ① 教育委員会定例会議・・・12回
- ② 教育委員会臨時会議・・・9回

(3) 教育委員会会議での審議状況

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条及び「大分市教育委員会所管事務委任規則」の規定に基づき、平成22年度は合計で77件について審議を行いました。

- ① 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針・・・・・・・・ 8件
- ② 事務局職員及び教職員の人事・・・・・・・・・・・・・・・・ 13件
- ③ 教育委員会規則の制定又は改廃・・・・・・・・・・・・・・・・ 12件
- ④ 教科用図書の採択・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1件

- ⑤ 奨学生の選定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2件
- ⑥ 法令又は条例に定めのある附属機関⁴の委員の委嘱・・・・・・ 17件
- ⑦ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価・・・・ 1件
- ⑧ 予算その他議会の議決を経るべき議案に対する意見申出・・・・ 22件
- ⑨ その他教育に係る事務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1件

平成22年度教育委員会審議案件等一覧(分類欄は、上記の分類によるものです。)

番号	件名	提出日	分類
1	大分市公民館長及び大分市関崎海星館長の任命について	4月26日	②
2	大分市文化財保護審議会委員の委嘱について	4月26日	⑥
3	大分市体育指導委員の委嘱について	4月26日	⑥
4	大分市学校医等公務災害補償認定委員会委員の委嘱及び任命について	4月26日	⑥
5	平成21年度補正予算(平成22年3月31日付市長専決処分)について	5月27日	⑧
6	大分市奨学生選考委員会委員の委嘱及び任命について	5月27日	⑥
7	平成22年度大分市奨学生の決定について	5月27日	⑤
8	大分市立学校職員の給与に関する条例の一部改正について	5月27日	⑧
9	大分市学校給食共同調理場設置条例の一部改正について	5月27日	⑧
10	大分市公民館使用料徴収条例の一部改正について	5月27日	⑧
11	大分市関崎海星館条例の一部改正について	5月27日	⑧
12	損害賠償の額の決定並びに示談について	5月27日	⑧
13	大分市体育指導委員の委嘱について	5月27日	⑥
14	大分市公民館運営審議会委員の委嘱について	5月27日	⑥
15	大分市社会教育委員の委嘱について	5月27日	⑥
16	大分市美術館協議会委員の委嘱について	5月27日	⑥
17	平成22年度行政評価・実施計画について	6月24日	①
18	大分市関崎海星館条例施行規則の一部改正について	6月24日	③
19	大分市奨学生選考委員会委員の委嘱について	6月24日	⑥
20	大分市公民館運営審議会委員の委嘱及び任命について	6月24日	⑥
21	大分市民図書館協議会委員の委嘱及び任命について	6月24日	⑥
22	県費負担教職員の人事異動の内申について	7月15日	②
23	教育委員会職員の人事異動について	7月26日	②
24	教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価について	7月29日	⑦
25	大分市公民館運営審議会委員の委嘱及び任命について	7月29日	⑥
26	大分市美術館協議会委員の委嘱について	7月29日	⑥
27	大分市教育委員会事務局組織規則の一部改正について	7月30日	③
28	平成23年度使用教科用図書の採択について	8月10日	④
29	平成22年度9月補正予算について	8月31日	⑧

番号	件名	提出日	分類
30	平成21年度決算について	8月31日	⑧
31	大分市立幼稚園条例の一部改正について	8月31日	⑧
32	大分市立坂ノ市小学校給食調理場厨房備品の購入について	8月31日	⑧
33	大分市民図書館協議会委員の委嘱及び任命について	8月31日	⑥
34	公有財産の所管換等について	8月31日	⑨
35	条件附採用期間中における校長の勤務状況報告について	9月29日	②
36	大分市公民館運営審議会委員の委嘱及び任命について	10月28日	⑥
37	平成22年度12月補正予算について	11月24日	⑧
38	平成23年度当初予算要求について	11月24日	①
39	平成23年度大分市立学校の休校について	11月24日	①
40	平成22年度県費負担教職員の人事評価について	11月24日	②
41	大分市立学校職員の給与に関する条例等の一部改正について	11月24日	⑧
42	大分市立幼稚園規則の一部改正について	11月24日	③
43	大分市立大道小学校給食調理場厨房備品の購入について	11月24日	⑧
44	大分市公民館条例及び大分市公民館使用料徴収条例の一部改正等について	11月24日	⑧
45	大分市立エスペランサ・コレジオ条例の一部改正について	11月24日	⑧
46	大分市公民館運営審議会委員の委嘱及び任命について	11月24日	⑥
47	大分市営陸上競技場及び津留運動公園有料施設に係る指定管理予定者の決定について	11月24日	⑧
48	大分市関崎海星館に係る指定管理予定者の決定について	11月24日	⑧
49	平成22年度12月追加補正予算について	12月3日	⑧
50	教育委員会の権限に属する事務の一部の補助執行に関する協議について	12月16日	①
51	義務教育等教員特別手当の支給に関する規則の一部改正について	12月16日	③
52	平成23年3月末教職員定期異動方針について	12月16日	②
53	大分市公民館管理規則の一部改正について	12月16日	③
54	大分市総合計画第2次基本計画策定について	1月27日	①
55	大分市公民館運営審議会委員の委嘱及び任命について	1月27日	⑥
56	大分市公民館長の任命について	2月24日	②
57	平成22年度3月補正予算について	2月24日	⑧
58	平成23年度当初予算について	2月24日	⑧
59	大分市教育委員会事務局組織規則の一部改正について	2月24日	③
60	大分市立学校職員の給与の支給等に関する条例の一部改正について	2月24日	⑧
61	平成23年度大石奨学生及び大分市高等学校修学支援奨学生の決定について	2月24日	⑤
62	平成23年度大分市学校教育指導方針について	2月24日	①

番号	件名	提出日	分類
63	大分市立エスペランサ・コレジオ条例の一部改正について	2月24日	⑧
64	大分市関崎海星館管理規則の廃止について	2月24日	③
65	大分市子どもの読書推進計画(第二次)の策定について	2月24日	①
66	大分市生涯学習推進計画(第二次)の策定について	2月24日	①
67	県費負担教職員の人事異動の内申について	3月15日	②
68	県費負担教職員の人事異動の内申について	3月24日	②
69	教育委員会職員の人事異動について	3月24日	②
70	大分市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部改正について	3月29日	③
71	大分市学校給食共同調理場管理規則の一部改正について	3月29日	③
72	南大分体育館長の任命について	3月29日	②
73	大分市民図書館長の任命について	3月29日	②
74	大分市公民館長の任命について	3月29日	②
75	大分市立エスペランサ・コレジオ管理規則の一部改正について	3月29日	③
76	大分市美術館条例施行規則の一部改正について	3月29日	③
77	アートプラザ条例施行規則の一部改正について	3月29日	③

※審議案件の他、協議事項及び報告事項についても取り扱いました。

協議事項・・・1件

件 名	件 数
教育委員会委員長の選任について	1件

報告事項・・・59件

報 告 内 容	件 数
市議会関係について	15件
幼稚園教育について	4件
隣接校選択制度について	1件
文化財の指定・答申について	3件
小中学校適正配置計画について	8件
学校給食について	1件
教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価について	3件
大分市学力向上ステップアップ事業について	2件
その他	22件

(4) その他活動状況

教育委員は、教育委員会会議に出席するほか、協議会の開催、研修会の参加、学校訪問、教育施設の視察、行事等への参加等の活動を行っています。

① 委員協議会・・・4回

概 要	時 期
教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価について	10月
市長との意見交換会について	10月
教育委員会会議録のホームページ掲載について	10月
市長との意見交換会終了後の感想について	1月

② 研修会等・・・5回

概 要	時 期
平成22年度大分県市町村教育委員会連合会研修会(県教委と共催)	5月
第1回学習会(教科用図書の選定について)	6月
第2回学習会(学力向上ステップアップ事業、学校支援センター、学校職員評価システム)	7月
第3回学習会(子ども市議会、小中学校適正配置計画について)	8月
第4回学習会(会議録のホームページ掲載について)	9月

③ 懇談会等・・・3回

		概 要	時 期
大分教育事務所との情報交換会	目的	教育事務所との連携を図るため、教育事務所と情報交換を行った。	5月
	内容	教育事務所の平成22年度の基本方針や施策について、また教育事務所の業務内容等について情報交換を行い、取組みについての共通理解を得られた。	
市長との意見交換会	目的	市長部局とのいっそうの連携を図るため、市長と意見交換を行った。	10月
	内容	テーマは、「学力並びに体力向上について」とし、お互いが率直な意見交換を行い、より一層の意志疎通が図られた。	
教育懇談会	目的	校長としての所感や課題・悩みの現状を聞くため開催した。	1月
	内容	テーマは、「小中一貫教育の推進について」とし、各校長は活発な発言を行い、学校現場の状況について把握することが出来た。	

<市長との懇談会の様子>



<教育懇談会の様子>



④ 学校訪問・・・2校(園)

		概 要	時 期
下郡小学校	目的	学校現場の実態・実情を把握するため、授業参観や学校長との意見交換等を行った。	11月
	内容	毎年、一日かけて市内の小中学校等へ訪問をしており、今年度は市内中心部の学校を訪問し、学力向上等についての取組みについて把握、要望を行った。	
原川中学校	目的	学校現場の実態・実情を把握するため、授業参観や学校長との意見交換等を行った。	11月
	内容	毎年、一日かけて市内の小中学校等へ訪問をしており、今年度は市内中心部の学校を訪問し、生徒指導等についての把握を行った。	

<授業参観をする教育委員の様子(下郡小)>



<授業参観をする教育委員の様子(原川中)>



⑤ 所管施設等の視察・・・3施設

概 要		時 期
学校給食西部共同調理場、元町石仏、南大分体育館、植木家住宅(個人所有)	目的	11月
	内容	

教育施設の実態・実情を把握するため視察を行った。
 西部共同調理場は、導入している最新の設備機器についての使用状況を視察、元町石仏では石仏の保存状態を確認、南大分体育館では、幅広く利用されている施設について視察し、個人所有の植木家住宅では、有形文化財として国に登録されている主屋や離れを拝見し、文化的教養を深めた。

<南大分体育館で説明を受ける教育委員>



<元町石仏の視察>



⑥ 先進地視察・・・2箇所

概 要		時 期
岐阜市教育委員会、岐阜市立厚見小学校、豊田市教育委員会、豊田市立岩倉小学校	目的	1月
	内容	

他都市教育委員会の先進的な取組みについて視察を行った。
 岐阜市は、全国学力テストなどで上位の成績を納めており、豊田市はトヨタ自動車株式会社を背景に、ものづくりの教育に取り組んでおり、その実態について伺った。また、岐阜市では小中一貫英語教育として取り組んでいる英語授業について、豊田市では、燃料電池自動車を使った授業と、全国的に先進的な取組みを行っている様子を視察した。

<小中一貫英語教育の様子>



<燃料電池自動車を使った授業>



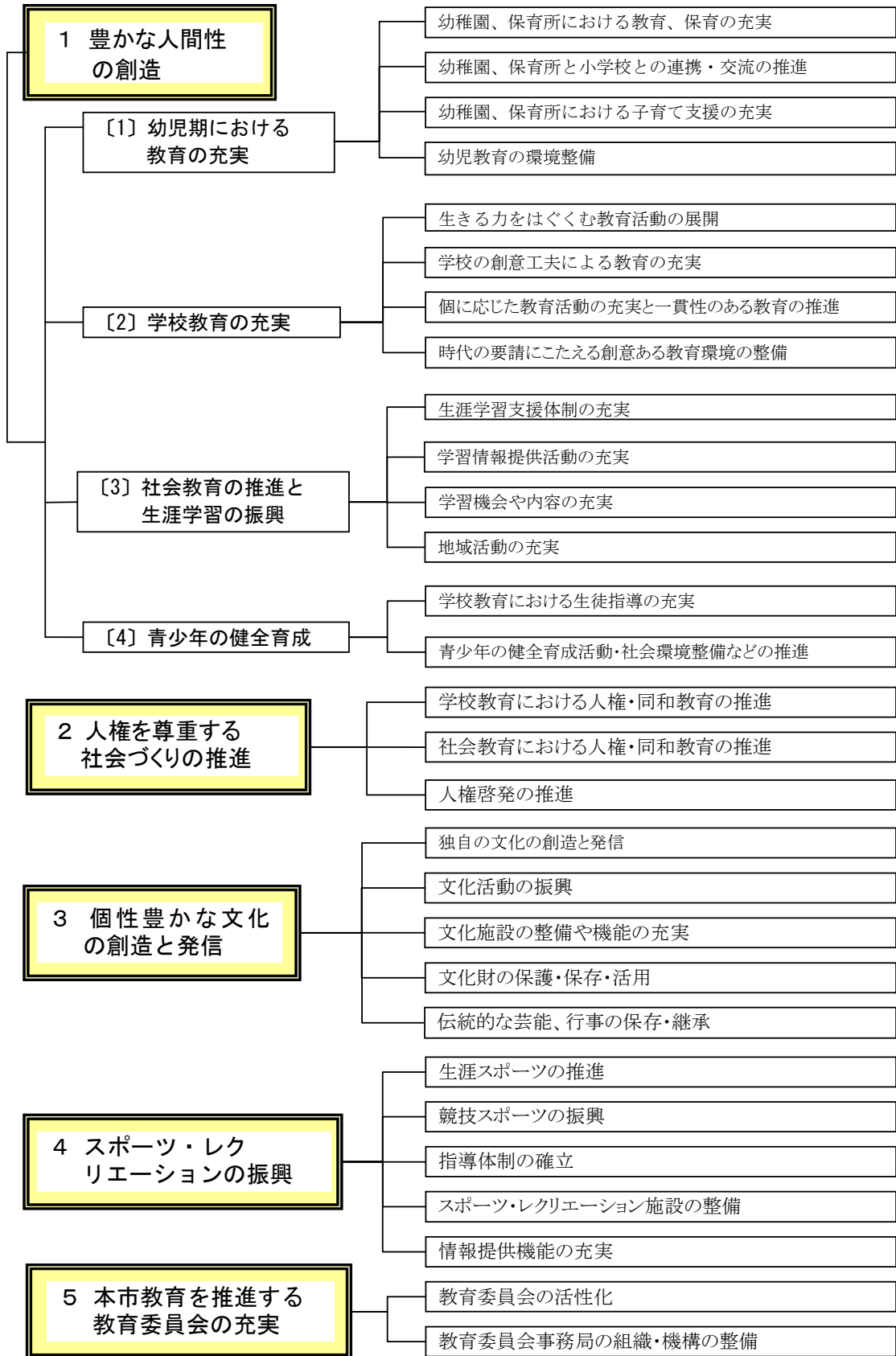
⑦ 各種会議・行事等・・・13回

(教育委員の活動について広く市民に理解していただけるよう、行事への積極的な参加を行いました)

概 要	時 期
小学校入学式、中学校入学式	4月
大分県市町村教育委員会連合会総会	5月
第27回ムっちゃん平和祭	8月
陶芸祭	9月
文化の日表彰式	11月
大分県学校給食優良学校等表彰選考委員会	12月
大分市成人記念集会	1月
大分市家庭の日推進大会	2月
小学校卒業式、中学校卒業式、幼稚園卒園式、大分県スポーツ振興審議会	3月

2 「大分市教育ビジョン」点検・評価結果

重点施策の体系（構成図）



重点施策 (1) 豊かな人間性の創造 ① 幼児期における教育の充実

1. 目標

○人間形成の基礎を築く幼児期の重要性、本市の幼児教育の実情などを踏まえ、義務教育への円滑な接続を図る保育の充実、子育て支援策など、幼児教育環境の整備に努める。

2. 取組の進捗状況

具体的な施策	指標の説明	19年度 状況	22年度 実績	23年度 指標	23年度に向けた22年度の 進捗状況	評価
①幼稚園、保育所における教育、保育の充実						
「大分市幼稚園教育スタンダード」の策定	策定の取組	策定準備	策定	実施	タイトルを「大分市立幼稚園 保育の手引き」として策定した。	A
幼稚園教諭と保育士などとの合同研修機会の提供	研修会の開設講座数	2講座	9講座	5講座	合同研修を昨年より1講座多い9講座開催し、延べ90名の私立幼稚園教諭が参加した。	A
市立幼稚園への「専任園長制」の導入	専任園長制導入園数	0園	5園	3園以上	前年度より1園増やし、5園に「専任園長制」を導入した。	A
市立幼稚園における学校(園)評価の取組の推進	実施園数の割合	内部評価100%	学校関係者評価100%	学校関係者評価100%	全園で学校(園)関係者による評価を実施した。	A
市立幼稚園における特色ある園づくりの推進	地域との交流活動を取り入れた園の割合	66%	91%	86%	22年度からの新規事業「豊かな教育環境創造事業」などを活用し、地域との交流活動を取り入れた園は、91%(30園)であり、平成21年度に引き続き23年度指標を達成した。	A
<p>●幼児に生きる力の基礎を培うための実践のポイントを示した「市立幼稚園 保育の手引き」を策定するとともに、各市立幼稚園の主任に対して本書の趣旨や内容について説明会を実施し、本書を活用した日々の保育の充実を図った。また、私立幼稚園や保育所(園)においても参考となるよう配布を行った。</p> <p>▲本市が主催する市立幼稚園教諭と私立幼稚園教諭との合同研修においては、講座数及び私立幼稚園教諭の参加者数ともに昨年を上回ったものの、保育士との合同研修までにはいたっていない。</p>						
②幼稚園、保育所と小学校との連携・交流の推進						
幼稚園・保育所・小学校連絡協議会の設置	設置に向けた取組	検討	関係各課協議実施	設置	H23年度設置に向け、関係各課との協議を実施した。	A
<p>●小学校との連携を教育課程に位置づけた市立幼稚園が、昨年度の5園から今年度は17園に増加する等、徐々に幼稚園と小学校との連携の必要性に対する気運の醸成が図られてきている。</p> <p>▲多くが小学校に併設されている市立幼稚園とは異なり、大部分の私立幼稚園や保育所(園)等においては、小学校との距離や経費などの問題などから小学校との連携の取組は進んでいない現状もみられることから、今後、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を図ることが求められる。</p>						

③幼稚園、保育所における子育て支援の充実

市立幼稚園における「預かり保育」の充実	「預かり保育」実施回数・時間	週1回	週1回	週2回	平成23年度の週2回実施に向け園長・主任面接や園長会等の機会を捉え、各市立幼稚園に取組の拡充について指導した。	C
私立幼稚園の預かり保育利用者に対する支援の充実	補助利用者数(I期当たり平均)	367人	448人	380人	21年度に引き続き、23年度指標を上回る保護者の経済的負担の軽減が図られている。	A
市立幼稚園「子育て支援事業」の推進	各園の参加者総数	10,722人	17,119人	11,000人	各園での取組の内容が充実し、回数も合計延572回実施し、参加者も23年度指標を達成した。	A

●市立幼稚園の子育て支援事業において、これまでで一番多い572回の事業を実施した。内容も充実してきている分、参加者も増えてきている。

▲市立幼稚園における預かり保育の拡充については、園ごとに実施に向けた課題等を把握している段階である。幼保連携施設である「のつはるこども園」を構成する野津原幼稚園で、23年度から週2回、1回あたり2時間の預かり保育の実施を決定するなど、拡充の方向で検討している園が増えつつある。

④幼児教育の環境整備

新たな幼児教育振興計画の策定と実施(前期=21~25年度、後期=26~30年度)	策定と実施	策定準備	前期実施	前期実施	「大分市立幼稚園 保育の手引き」を策定し、計画に掲げた具体的方策等の具現化を図った。	A
--	-------	------	------	------	--	---

●振興計画に掲げた具体的方策を具現化するため、「大分市立幼稚園保育の手引き」を策定し、私立幼稚園や保育所(園)にも配付を行った。また、市立幼稚園の統廃合基準により、来年度以降、統廃合対象園となる可能性のある7園の関係者に対し、状況説明等を行った。

▲統廃合計画の推進と平行して、統廃合園数の範囲内での2年制保育の拡大に向けた検討を進めていく必要がある。

3. 参考

【平成22年度 子育て支援事業 ～参加者の声から～】

◆いつもは親子だけのかかわりだが、この事業に参加し、たくさんの方と交流を楽しむことができた。

◆園児たちの楽しく遊ぶ姿や我が子に接してくる先輩園児のやさしい姿に、冷たい風の吹く中、とてもあたたかな気持ちになりました。来年度、我が子の入園を楽しみにしています。

◆1年間、継続してこの事業に参加し、最初は、座って話を聞くこともできなかった我が子が、講師の先生の話術に引き込まれ、今では落ち着いて読み聞かせに参加できるようになり、子どもの成長が実感できたところです。

◆リミックという小さい子どもたちが喜ぶ内容だったので親子とも安心して楽しく参加でき、気軽に他の親子とも触れ合うことができた。

◆園児や参加した未就園の子どもたちから、たくさんのエネルギーをもらうことができ、私自身もこの事業への参加をとても楽しみにしておりました。(ボランティアで参加した地域の方の感想)

重点施策 (1) 豊かな人間性の創造 ② 学校教育の充実

1. 目標

- 学校教育においては、確かな学力の向上、心の教育の充実、健やかな体の育成に取り組み、自ら学び自ら考える力などの生きる力を育成する教育の創造に努めるとともに、学校の教育力(「学校力」、教師の力量(「教師力」)を高め、子どもたちの「人間力」の育成をめざす。
- 家庭、地域社会および関係機関との連携の強化を図りながら、開かれた学校、信頼される学校づくりに努めるとともに、時代の要請にこたえる創意ある教育環境の整備充実に努める。

2. 取組の進捗状況

具体的な施策	指標の説明	19年度の状況	22年度実績	23年度指標	23年度に向けた22年度の進捗状況	評価
①生きる力をはぐくむ教育活動の展開						
大分っ子基礎学力アップ推進事業の実施	指導主事の学校要請訪問	57%	100%	80%	基礎学力向上研究推進校の研究、自主公開研究発表及び校内研究などの機会を通じ、全校に指導主事を派遣した。	A
	標準学力検査における各教科の到達指標(全国平均を100として)	101	100	104	指導資料の作成・配布、学力向上会議の開催、研究推進校の成果の還元等を行った結果、全国平均と同等だった。	C
国際理解教育の推進と充実	小学校5・6年へのALT等の派遣	年間2回	年間10回	月1回	ALTを増員し、小学校への派遣回数を増やすことができた。	A
情報教育の推進と充実	コンピュータの整備	検討	特別教室6台	特別教室6台	情報教育に係る研修を通じ、小中学校の特別教室に配置しているパソコンの活用を図った。	A
環境教育の推進と充実	環境教育研修会の受講者割合	20%	66.1%	40%	校長会等を通じ、市教委主催の環境教育に係る研修を紹介したり、校内研修を行ったりすることにより、教員の参加・受講を促進した。	A
読書活動の充実	全校読書タイム実施校数	82%	98%	100%	図書館担当者等を対象に、読書活動推進の方法や研究校の実践などについて研修することにより、学校の読書活動を推進した。	A
	児童一人当たりの年間貸出冊数	48冊	71冊	55冊	学校図書館支援員を配置し、図書館担当者との連携の下、読書環境の整備などを進めたことにより、児童の読書意欲が向上した。	A
	生徒一人当たりの年間貸出冊数	2冊	7冊	9冊	学校図書館支援員を配置し、図書館担当者との連携の下、読書環境の整備などを進めたことにより、生徒の読書意欲に向上が見られた。	A

進路指導の充実	小・中学校における職場見学・体験実施校の割合	34%	100%	50%	キャリア教育を推進することにより、全小中学校において職場体験活動や職場見学を実施し、勤労観、職業観の育成を図った。	A
	キャリア教育コーディネーターの中学校への派遣	74%	78%	100%	中学校で職業講話を実施する際に、商工労政課等と連携し、ヤングキャリアアドバイザー等の講師を派遣することにより、職業意識の向上を図った。	B
子どもの健康や体力の増進	新体力テストで全国平均以上の種目の割合	※9% (4.2%)	19%	30%	今以上に体力向上に向けた授業改善に取り組むため、コーディネーショントレーニングを取り入れた体力向上研修を行っている。	C
喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の充実	「薬物乱用防止教室」の開催	18校	59校	全小中学校	保健所や市薬剤師会などの関係機関と連携のもと、「薬物乱用防止教室」に関する情報を提供するとともに研修会において教室の重要性を再認識させることにより開催校は増加し、「薬物乱用防止教育の充実」は図られている。	B
食に関する指導の充実	地産地消の取組[学校給食の地元産食材の使用比率]	41%	42.4%	43%	地産地消推進会議を毎月開催し、旬の地元産食材の計画的使用を図っている。その結果、使用比率は目標に近づいており、学校給食を生きた教材とした「食に関する指導の充実」は図られている。	A
<p>●図書館担当者等を対象とした研修を実施したり、学校図書館支援員を配置し、図書館担当者との連携の下、読書環境の整備などを進めたりしたことにより、児童生徒の読書意欲に向上が見られた。</p> <p>●心身の調和のとれた発達に向けた健康安全教育の推進は着実に図られている。</p> <p>●新体力テストにおいて60%の項目が昨年度以上の数値であり、上昇傾向にある。</p> <p>▲指導主事による学校訪問や校長会等での研修を通し、各教科や道徳の授業研究、学力向上に係る取組の徹底等を行うことにより、教員の授業力の向上、授業での指導方法の工夫改善に取り組み、確かな学力の向上や心の教育の充実が図られつつある。しかしながら、標準学力検査において全国平均を下回る教科も見られるため、学力向上に係る取組を一層強化する必要がある。</p> <p>▲体力向上に向けテスト結果を分析し、児童生徒の意欲向上と授業改善を行っていく必要がある。</p>						
②学校の創意工夫による教育の充実						
特色ある学校づくり推進事業の実施	活動へのボランティア参加人数	700人		800人	平成21年度末をもって事業終了	
	外部講師等の参加人数	370人		450人	平成21年度末をもって事業終了	
各種教育活動における地域の人材活用	学校教育支援員の活用分野数	8分野	17分野	13分野	各学校からの推薦等により、学校教育支援バンクの登録分野や人数の充実を図った結果、17分野にのべ101名の登録となった。	A

地域に開かれた学校づくり、信頼される学校づくり	学校評議員研修会の開催日数	1回	2回	2回	開催時期や参加人数等の調整を行い、学校評議員を対象に研修会を実施し、学校評議員の制度や役割についての理解を図った。	A
	学校ホームページの更新	学期1回	年3回	月1回	学校ホームページコンテストや各種研修会等を実施した結果、各学校の更新回数は増えつつある。しかしながら、全校が達成したのは年3回以上であった。	C
<p>●「生き生き学習サポート事業」の活用により、地域と一体となった学習活動が推進され、外部講師による専門的な指導を通し、子どもの技術・技能や学習意欲の向上が図られた。</p> <p>▲今後、開かれた学校づくり、信頼される学校づくりを一層推進するうえから、学校ホームページの内容の充実や更新回数の増加など、地域への情報発信を積極的に推進することが必要である。</p>						

※県において、平均値の比較をT-スコアを用いていることから、本市においても、T-スコアを用いることとした。
【T-スコア】とは、通常「偏差値」と呼ばれているものである。

③個に応じた教育活動の充実と一貫性のある教育の推進						
特別支援教育の充実	巡回教育相談の実施(年間)	5回	6回	7回	市報や市のホームページで広く呼びかけ、保護者を対象とした巡回教育相談を6回実施した。	A
小中学校の一貫性のある教育の推進	小中一貫教育校の設置	1校	1校	4校	市内6中学校区(18校)を連携型小中一貫教育推進校に指定し、連携型の小中一貫教育の研究を推進した。	A
<p>●平成23年度の小中一貫教育全市展開に向け、市内6中学校区(18校)を小中一貫教育推進校に指定し、連携型小中一貫教育の取組を推進した。また、モデル校や推進校以外の学校においても、中学校区での合同研修会等を通し、小中連携の取組を推進した。</p>						

④時代の要請にこたえる創意ある教育環境の整備						
学校施設環境の整備充実	学校図書館の空調設備設置校の割合	16%	69%	50%	年次計画により、小・中学校合わせて19校に設置し69%となった。	A
	教室の照明設備の改修実施数	年10教室	年6教室	年10教室	教室内の環境の改善を図るため、小学校2教室、中学校4教室、計6教室の老朽化した照明器具の取替え・増灯を実施。実施教室数は減じているものの、実使用教室の改修はほぼ終了している。	B
	トイレの全面改修実施校数	年1校	年2校	年1校	衛生に対する意識及び生活環境の改善を図るため小・中学校各1校で実施した。	A
	特別教室の全面改修実施数	年2教室	年6教室	年2教室	小・中学校の家庭科室各3教室と小・中学校の理科室3教室の計6教室を改修した。	A
	プールの改築実施校数	年2校	年0校	年2校	予算確保が困難であったため実施校なし	D

学校施設環境の整備 充実	外壁及び屋上大規模改修実施校数	年2校	年3校	年2校	緊急性の高い校舎の外壁改修を小学校2校、中学校1校の計3校実施した。	A
	環境に配慮した施設整備実施校の割合	14%	18%	19%	校舎の増改築に伴い、中水利用・人感センサー付照明設備等、省エネ・省資源型の施設整備を1校実施した。	A
学校施設の耐震化の 推進	耐震化率	61%	75%	76%	耐震診断結果を基に作成した耐震化計画により15棟の耐震化工事を実施し、75%となった。	A
隣接校選択制の実施	隣接校選択制の実施状況	一部地域での試行	全市域で実施	全市域で実施	定員設定のあり方を変更するなど、実情に即した制度となるよう取り組んだ。	A
通学区制度の弾力的運用	弾力化の取組	見直し・改善	見直し・改善	見直し・改善	保護者の意向に配慮した弾力的な運用と東日本大震災等による緊急時の対応にも努めた。	A
市立小・中学校の適正配置	基準及び計画の策定	基準の検討	検討の開始	計画の策定	「大分市立小中学校適正配置計画検討委員会」を設置し、適正配置について検討を進めた。	A
教職員研修の充実	研修の精選と内容の充実(講座・日数)	108講座 308日	105講座 265日	104講座 305日	講座数、日数の精選に努め、研修内容・方法等の工夫改善を図った。	A
子どもの読書活動の 推進	学校図書館蔵書の充足率	95%	129.6%	100%	学校図書購入に係る予算化や適正な蔵書管理などにより、蔵書の充足率が向上した。	A
奨学制度の充実	制度の見直し検討	検討	見直し	見直し	高校生を対象に、入学・進級時に支援金を贈与する、寄付金に基づく新たな制度を創設した。	A
<p>●学校図書購入に係る予算化や適正な蔵書管理などにより、蔵書の充足率が向上した。今後は、一定の充足率を確保しつつ、新刊の購入や古書の廃棄等の入れ替えを計画的に進める必要がある。</p> <p>●平成22年度は予算上の都合等で一部計画通り実施できなかった事業があるものの、最重点事業である耐震化の推進をはじめとし、ほぼ全ての項目で計画の実施を行った。</p> <p>●隣接校選択制については、全市域で計画的に実施してきたことにより、児童生徒と保護者のニーズに基づく制度として定着してきている。</p> <p>●市立小中学校の適正配置については、「大分市立小中学校適正配置計画検討委員会」を設置し、H22年度中に6回にわたり検討を重ね、早期に検討すべき6中学校区を選定した。</p>						

重点施策 (1) 豊かな人間性の創造 ③ 社会教育の推進と生涯学習の振興

1. 目標

- 市民一人ひとりが、自己の人格を磨き、豊かな生活を送るため、その生涯にわたって、あらゆる機会あらゆる場所において学習することができるよう、幼児期から高齢期までの各期に応じた魅力ある学習の場の提供に努め、市民の学習活動を促進する。
- 自ら学び、その成果を適切に生かすことのできる生涯学習社会の実現を目指す。
- 地域の学習拠点、家庭教育の支援拠点、学校・家庭及び地域社会の連携拠点として、公民館など社会教育施設の機能を充実し、魅力ある多様な事業展開を図る。

2. 取組の進捗状況

具体的な施策	指標の説明	19年度の状況	22年度実績	23年度指標	23年度に向けた22年度の進捗状況	評価
①生涯学習支援体制の充実						
読書活動支援の取組	校区公民館への図書配送業務	構築	全校区館	全校区館	全校区公民館への図書配送業務を週1回実施し、2,972冊の貸出利用があった。	A
●全校区公民館への図書配送の利用が21年度の2,130冊から2,972冊に増加した。今後も市民に周知し、利用増を図る。また「子どもの読書活動推進計画」に沿い、「子ども読書の日」「秋の読書週間」にちなんだ取組等を行っていく。						
②学習情報提供活動の充実						
生涯学習に関する多様な学習情報の提供	「まなびのガイド」へのアクセス件数	51,079件	69,497件	55,000件	生涯学習情報の充実により、アクセスが指標より増加している。	A
●「まなびのガイド」のアクセス数は、動画配信コンテンツの充実や広報活動により順調に伸びている。今後は更なるアクセス数の増加に向け、広報活動やコンテンツの充実、情報の最新化を図る。						
③学習機会や内容の充実						
家庭教育を支援するための取組	「家庭教育学級」の開設数	80学級	71学級	85学級	22年度の開設は71学級であった。21年度より1学級増である。	C
	地区公民館で開催する集会「子育ての集い」への参加者数	1,314人	2,531人	1,350人	1公民館でイベント的な集いを実施し、1,297人の参加があった。これを含めて合計2,531人の参加者であった。	A
	地区公民館で開催する「乳幼児家庭教育学級」への参加組数	301組	339組	350組	21年度より3組増の339組の参加があった。子育てに対する悩みも相談できる場として好評である。	B
	小学校就学前の子どもをもつ保護者が学ぶ「子育て講演会」の開設数	60小学校 6保育・幼稚園	60小学校 3保育・幼稚園等	61小学校 9保育・幼稚園	小学校については全校で実施することができた。	C

家庭教育を支援するための取組	中学校にて思春期の子ども心理や保護者のあり方を学ぶ「思春期講演会」の開催校数	60%	100%	75%	市内全中学校において開催。中学1年生の生徒の保護者を対象にして、市内全中学校で実施できた。	A
	「子育てサポーターリーダー」の養成地区数	4地区 公民館	12地区 公民館	8地区 公民館	13地区公民館のうち12地区公民館で子育てサポーターリーダーを配置できた。	A
	市民図書館が養成する「読み聞かせボランティア」の人数	50人	126人	70人	読み聞かせボランティアとしてこれまで126名の養成ができた。	A

●「乳幼児家庭教育学級」は子育てに対する悩みも相談でき、とても好評で参加者同士のネットワークづくりにつながった。
●「思春期講演会」については、各学校の要望に応えながら、思春期の子ども心理や接し方、家族のあり方などについて専門家の話を聞く機会が提供できた。

▲「家庭教育学級」については、19年度に比べると減少している。市報、ホームページ、公民館窓口等の利用だけでなく、各種会議や集会等に出向いて説明するなどして広報活動を広げていく。

▲子育て講演会は市内全小学校において、就学前の保護者を対象に、子育てのあり方を見つめなおす機会を提供することができたが、幼稚園・保育所においては減少しているのでさらに呼びかける必要がある。

④地域活動の充実

地域の子ども活動を支援する取組	地域子ども活動支援設置箇所数	47箇所	53箇所	55箇所	53校区において、子どもの身近な場所で、地域の指導者による体験活動を実施できた。	B
「生涯学習指導者登録制度」の拡充	登録者数	278人	305人	320人	各地区公民館や事業での呼びかけ等により、305人の登録ができ、順調に推移している。	B

●地域の子ども活動を支援する取組については、地域の指導者の支援のもと、読み聞かせや工作、科学遊び、いけばな等の体験活動が実施できた。また、6校区においては地域住民が主体となって実行委員会を組織して実施することができた。今後は全校区での開催と地域住民が主体となった取組へと広げていく。

3. 参考

地域活動の充実「地域の子ども活動を支援する取組」
(平成22年度 おおいたふれあい学びの広場推進事業 ～参加者の声から～)

◆山登りはきつかったけど、友だちから「がんばって」の声もらって力ができました。地域の人もしっしょに登っていて、きつそうだったので、「がんばって」と自分からも声をかけました。頂上で、みんなとゲームなどをしてとても楽しかったです。

◆月曜日の朝の時間は、ジャンケン列車やおにごっこなどをしていつも楽しいです。ほかの学年やクラスの人とも遊ぶので、これまで知らなかった人と友だちになりました。

◆おばちゃんたちといろんなゲームをしました。輪投げやもぐらたたきは、おもしろかったです。やったことのないゲームも楽しかったです。おばちゃんたちとも仲良くなりました。

◆ブンブン回しやストローロケットなどいろいろ作りました。最初は、うまくできなかったけど、おじちゃんやおばちゃんや先生から教えてもらってできました。詩吟やお茶も初めてしました。とても楽しかったです。

◆地域の人といろんなことをして楽しかったです。夏休みの活動で作った巣箱を、上野の森に行くと木に取り付けました。巣箱に鳥が来るといいです。

◆わらリースづくりで地域の方からなわのない方や飾りつけの仕方を教わりました。どんぐりや松ぼっくりなどを使いました。お正月に飾りたいです。

重点施策 (1) 豊かな人間性の創造 ④ 青少年の健全育成

1. 目標

○「青少年自らの力による成長」と「青少年の成長を支える大人の体制づくり」を2本柱として、学校、家庭、地域社会、職場が青少年の健全育成に向けてそれぞれの役割を果たし、豊かな人間性や社会性を身につけた、新しい時代を切り拓く青少年の健全育成に努める。

2. 取組の進捗状況

具体的な施策	指標の説明	19年度の状況	22年度実績	23年度指標	23年度に向けた22年度の進捗状況	評価
①学校教育における生徒指導の充実						
大分市小中学校生徒指導連絡会	研修の実施内容等の充実(年4回)	現状分析	実施	見直し	児童生徒の健全育成を目指す積極的な生徒指導の研修内容となるよう見直しを行い、実施した。	A
大分市小中学校教育相談担当者連絡会	事例発表など内容の充実(開催回数)	4回	4回	5回	教育相談体制の充実を図るため、いじめや不登校等の問題への組織的対応や小中連携による未然防止、早期発見・早期対応等の研修の充実に努めた。	B
大分市いじめ・不登校等対策協議会	協議内容の充実(開催回数)	2回	3回	3回	本市におけるいじめ・不登校等の状況分析と未然防止や早期対応について、専門的見地からの意見を聞き、各学校への指導にいかせるよう協議内容の検討を行った。	A
児童生徒のボランティア活動	活動への参加率	70.1%	88.2%	90%	参加率の向上に向け、校長会や地区・校区青少年健全育成協議会等と連携した取組を進めた。	A
<p>●生徒指導連絡会について、これまで小学校部会と中学校部会に分かれて年4回開催してきたが、持ち方について検討を行った結果、22年度より従来の部会に加えて、中学校区・近隣学校別部会を開催し、小中学校間や近隣学校間での連携の強化を図った。</p> <p>●大分市いじめ・不登校等対策協議会について、内容の充実を図るために開催回数を増やし、実施した。</p> <p>●児童生徒のボランティア活動について、目標の参加率をほぼ達成した。</p>						
②青少年の健全育成活動・社会環境整備などの推進						
大分市「おやじの会」育成サポート事業	父親部の設立率	80%	98%	100%	父親の子育て参加促進と活動の場を家庭から地域へ広げるために、父親部の設立や活動の充実に向け支援を行った。	A
大分市「家庭の日」推進大会	参加者数	388人	423人	500人	「家庭の日」の趣旨の理解と定着を図るため、大分市PTA連合会との共催で開催した。	A

大分市こどもの安全見守りボランティア推進事業	ボランティア数	25,417人	27,048人	30,000人	学校が中心となり、PTAや地域関係者に登録者の拡大に向けて呼びかけた。	B
少年自然の家主催事業	定員に対する参加率	95%	90%	100%	市内全小中学校への周知と、市報やマスコミを通じて市民への広報に努めるとともに、事業内容の見直しと充実を図った。	C

●大分市「おやじの会」育成サポート事業による設立に向けた呼びかけや「全国おやじサミット」の開催により、着実に設置率が上がり、目標をほぼ達成した。

●大分市「家庭の日」推進大会の持ち方について検討した結果、目標とする参加者数に順調に達成しつつある。

▲大分市こどもの安全見守りボランティア推進事業については、徐々に増加傾向ではあるが、目標達成できていないことから、今後も参加者数増加に向けて検討する必要がある。

▲昨年度実績よりも減少した経緯については、気象状況や健康上の問題から参加のキャンセルが出たためととらえているが、達成率は90%と高い。今後ともより多くの市民が利用するように広報に努める。

3. 参考

平成22年度 大分市立うすき少年自然の家主催事業一覧

月日	名称	募集対象
10/16(土)～10/17(日)	キッズアドベンチャー国際交流とカヌーのつどい	小中学生
11/13(土)～11/14(日)	うすきの海で遊びま専科	20家族
12/4(土)～12/5(日)	手作りクリスマスのタベ	20家族
1/22(土)～1/23(日)	たき火だ集まれ親子ほくほくクッキング	20家族
2/26(土)～2/27(日)	ダンボールハウスに泊まろう	20家族

平成22年度 大分市立のつはる少年自然の家主催事業一覧

月日	名称	募集対象
5/8(土)	ピクニック DAY in のつはる	20家族(グループ)
5/29(土)	星空散歩	どなたでも
6/26(土)～27(日)	家族と遊ぼう 県民の森 ラベンダー祭り	30家族(グループ)
7/23(金)～25(日)	ワイルド夏冒険 2010	小5～中学生
8/18(水)～19(木)	サマーフェスティバル	小4～中学生
9/18(土)	星空散歩	どなたでも
10/30(土)～31(日)	秋のファミリーパーク	20家族(グループ)
2/26(土)～27(日)	キッズわくわく 2011	小4～中学生

重点施策 (2) 人権を尊重する社会づくりの推進

1. 目標

○「市民一人ひとりが互いに人権を尊重し合い、共に生きる喜びを実感できる地域社会の実現」をめざし、同和問題をはじめ、女性、子ども、高齢者、障がい者、外国人、HIV感染者、ハンセン病患者・元患者をめぐる人権問題など、身のまわりにあるさまざまな人権問題の解決に向けて取り組む。

○学校や地域における人権教育を推進し、「差別をしない、させない、許さない」という意欲と実践力をもった市民の育成に努める。

2. 取組の進捗状況

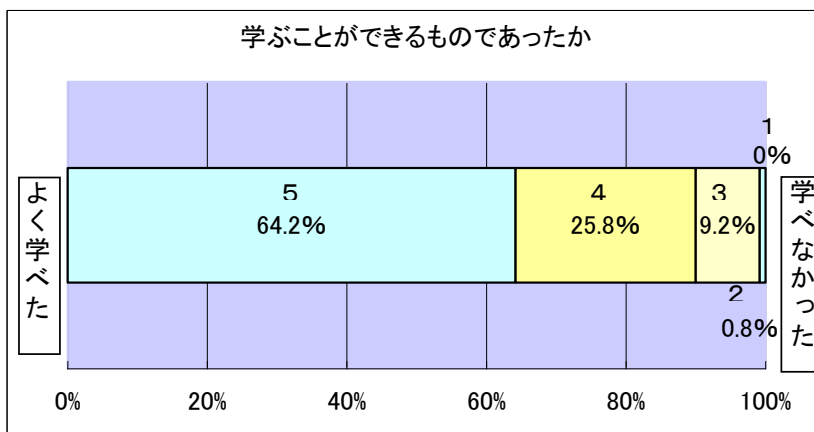
具体的な施策	指標の説明	19年度の状況	22年度実績	指標	23年度に向けた22年度の進捗状況	評価
				23年度		
①学校教育における人権・同和教育の推進						
子どもの意欲と実践力の育成	人権作文の応募率 (各学校学年1点)	79%	90%	100%	応募を希望制としているが、応募率は上がっている。	B
教職員の研修の充実	校内研修の延べ実施回数	264回	349回	280回	人権・同和教育の研修が短時間で実施できるように学校あてに発行している人権・同和教育たより「ててマル」の内容の充実を図った。	A
保護者への人権啓発事業	人権啓発講演会などの開催学校数	12校	30校	30校	積極的に講演会の開催を呼びかけるとともに講師の紹介を行った。	A
<p>●人権感覚の涵養には、学校教育や家庭教育の果たす役割が大きい。学校教育においては、教員が最大の教育環境であるため、教員が自ら人権感覚を磨いていくことが重要である。したがって、校内における研修回数増加の意味は大きい。</p> <p>▲子どもの人権感覚を一層涵養するためにも、保護者に対する啓発を一層充実させていく必要がある。</p>						
②社会教育における人権・同和教育の推進						
地区公民館の人権講座	人権講座の講座数	16講座	26講座	18講座	13地区公民館において、専門講座と人権講座が行われるようになった。	A
地区人権教育推進協議会	地区人権協の設置数	12	13	13	植田地区人権協の再編により、人権協が市内全域を網羅することになった。	A
大分市人権・同和教育推進連絡協議会	加入団体数	82	88	100	植田・宗方校区人権協の統合・拡大により植田地区人権協が設立されたため、1団体減少した。	B
地区人権教育推進協議会	学習会の参加者数	2,608人	4,745人	2,700人	人権協において、人権懇談会等の開催回数が増加するなど、活動が充実してきている。	A
<p>●植田校区、宗方校区人権協の再編により植田地区人権尊重推進協議会が設立され、地区人権協がすべての公民館エリアごとに全地区に設置され、市民啓発の体制が整った。さらに、人権協の地区懇談会等への参加者数も増加傾向にあり、人権講座の回数も増加が予定されている。</p> <p>●アンケート結果によれば、人権講座の内容についての満足度は非常に高い。</p> <p>▲大分市人権・同和教育推進連絡協議会の加入については、企業等を訪問し加入促進を図っている。今後より多くの企業に加入を呼びかける必要がある。</p>						

③人権啓発の推進						
人権啓発研修会などの人権啓発事業	講師派遣回数	222回	271回	240回	人権に関する研修等の回数増により、講師派遣の要請が多くなった。	A
人権にかかわる視聴覚教材の充実	ビデオテープ、DVDの所蔵数	140本	166本	150本	他課と調整、吟味しながら、効果的な教材を購入した。	A
大分市人権問題講師団の充実	講師登録者数	20人	26人	30人	講師団を組織化し、賛同者を募っており、少しずつではあるが講師登録者数が増加している。	B
●さまざまな機会をとらえて人権啓発を行なっているため、人権・同和問題に関する研修の必要性が高まり、研修会や懇談会等を希望する自治会や団体が多くなってきている。						

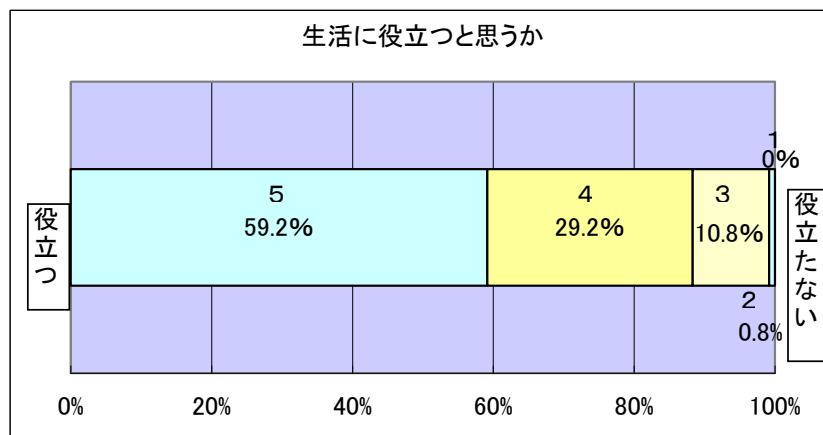
3. 参考

○南大分公民館人権・同和問題専門講座アンケート結果(5回シリーズ計120人分、5段階評価)

・本日の講座は、あなたにとってよく学ぶことができるものでしたか



・本日の講座は、あなたの今後の生活に役立つと思いますか



重点施策 (3) 個性豊かな文化の創造と発信

1. 目標

- 真の豊かさとゆとりや潤いのある地域社会の創造をめざし、子どもから大人までが優れた芸術文化に親しむ場や文化活動に対する学習機会を提供するための基盤づくりを推進し、芸術文化に関する幅広い情報の提供に努める。
- 地域に生活する人々のやすらぎや連帯感、郷土意識を高めるため、地域に根ざした歴史や伝統・文化を伝えるかけがえのない文化財の保護に努め、地域の様々な文化財情報を発信することにより、自然や歴史的景観と調和した個性的で魅力あふれるまちづくりを推進する。

2. 取組の進捗状況

具体的な施策	指標の説明	19年度の状況	22年度実績	23年度指標	23年度に向けた22年度の進捗状況	評価
①独自の文化の創造と発信						
優れた美術を鑑賞する機会の提供	所蔵作品の公開率	87%	87.6%	89%	目標年度に向けて順調に推移している。	A
	美術館施設利用者数	193,095人	415,536人	232,000人	ようこそ魔法の美術館等の集客力のある企画内容やマスコミ報道による口コミ効果により大幅な利用者増となった。	A
市民の自主的・創造的文化活動の促進	アートプラザ利用率	86%	84%	87%	過去のホール利用者への働きかけ等広報努力により対前年3%の上昇となった。	C
	アートプラザ利用者数	127,014人	171,026人	152,000人	ホールでのイベント開催や各種講座の開催等により、順調な利用者増が図られた。	A
本市独自の文化の創造と発信	常設展出品作の作品解説整備率	15%	48.4%	31%	年間4回の展示替えの都度解説を整備しており、目標値は達成できている。	A
<p>●優れた企画展により、大幅な観覧者増が得られた。</p> <p>▲事業費が毎年削減される中、少ない経費で最大の効果が期待できる企画展の開催方法について検討していかなければならない。</p> <p>▲アートプラザ(指定管理者)の利用者数は目標に達しているが、施設利用率については、前年利用者に対しての再利用の働きかけにより若干向上したものの、まだ目標に達成していないことから、引き続き利用率回復に向けた努力が必要とされる。</p>						
②文化活動の振興						
文化活動団体やアーティストとの協働による事業の推進	外部講師数	9人	9人	9人	広く美術、芸術に親しむ講座において、内部講師のみでなく、美術家や様々な分野の講師を招聘し、限られた予算の中ではあるが、目標値が達成できた。	A
<p>●上野の森アートフェスティバルや美術館で音楽会等で文化活動団体やアーティストとの協働による事業の展開ができています。</p> <p>▲外部講師を招聘して行う各種講座については、招聘に伴う予算が削減される中で、内部講師による講座の充実を図らざるを得ない。</p>						

③文化施設の整備や機能の充実						
資料の収集・保管、調査研究、教育普及、情報提供などの機能の充実	所蔵作品数	1,924点	2,564点	2,083点	すでに目標値は達成できているが、優れた美術品の収集を引き続き行うことが必要と考える。	A
文化活動を行う多くの市民が交流しあえる場の提供	芸術文化講座数	17講座	24講座	18講座	年間を通しての広く、芸術に親しむ講座や夏休みを中心とした子ども講座を開催するなど、活発な事業展開により、目標値は達成できている。	A
<p>●資料の収集については、購入、寄贈により点数を増やすことができた。</p> <p>●講座・講演会等については述べ82回を開催し、4,700人を超える参加者が得られ、目標の達成ができた。</p> <p>▲優れた作品を収集するためには多額の購入予算が必要となるが、予算縮減が求められる中で対応が困難となってきている。</p>						
④文化財の保護・保存・活用						
文化財の適正な保存・調査・収蔵・公開・活用	大友氏遺跡の保存・活用	追加指定・公有化	整備基本計画策定	整備基本計画策定	平成23年2月7日に566.84㎡の追加指定を受け、1678.91㎡が公有化された。	A
	横尾貝塚の保存・活用	指定申請	整備計画の検討	整備計画の検討	将来の史跡公園整備について、地元住民との意見交換会を実施し、史跡管理の仕組みづくりができた。	A
	文化財指定数	171件	192件	177件	大分市指定文化財2件を目標としていたが、大分県指定文化財も加わり、目標を達成できた。	A
文化財に関する情報提供機能の充実	指定文化財・資料館収蔵資料の公開数	85件	138件	150件	公開点数を増やすことができた。	A
市民の学習・交流の場の提供	歴史資料館施設利用者数	40,433人	42,457人	41,000人	指標は越えているものの、ほぼ昨年度実績並であった。	A
	体験学習メニューの充実	10種類	11種類	12種類	新規体験学習メニューを模索中である。	B
<p>●大友氏遺跡については、地元住民の理解を得ながら順調に指定・公有化が進んでいる。</p> <p>●横尾貝塚については、地元住民と意見交換会を実施し、史跡の清掃等の管理の仕組みづくりができた。</p> <p>●小牧山古墳等未指定文化財を調査することで、市指定・県指定併せて3件を新たに指定文化財とすることができた。</p> <p>●歴史資料館施設利用については、市民の学習交流の場の提供や宣伝活動を実施し、利用者数は指標を越える事ができた。</p> <p>▲利用者数が横ばいであるため、利用拡大に向け新しい体験メニューの開拓や、学校等へのPR活動の強化が必要である。</p>						
⑤伝統的な芸能、行事の保存・継承						
伝統芸能、行事などの保存・継承	伝統文化調査報告書の刊行	報告書2冊刊行	報告書6冊刊行	報告書※13冊刊行	平成22年度、3地区の記録保存ができた。	B
<p>●平成21年度と合わせて6冊報告書の刊行ができた。</p> <p>▲調査・報告書原稿作成に時間を要するため、効率よく刊行を計画を進める必要がある。</p>						

※大在地区は既刊の報告書があるため、当初の予定であった14冊から13冊に変更する。

重点施策 (4) スポーツ・レクリエーションの振興

1. 目標

○ 市民の誰もが身近な所で気軽にスポーツ・レクリエーションに親しみ、生涯にわたって健康で活力に満ちた生活を送ることができるよう、「大分市スポーツ振興基本計画」を策定し、市民が主体的に取り組む環境づくり、多彩な活動機会の提供、指導体制の確立、情報提供機能の充実に努めるとともに、各種競技スポーツの競技力の向上を図る。

2. 取組の進捗状況

具体的な施策	指標の説明	19年度の状況	22年度実績	23年度指標	23年度に向けた22年度の進捗状況	評価
①生涯スポーツの推進						
生涯スポーツの取組への支援	これまでのスポーツ教室の実施校区・地区数	26	28	28	毎年、11校区・地区が「中高年ならびに青少年のスポーツ教室」に取り組んでいるが、昨年度、2つの校区・地区が初めて取り組んだ。	A
健康増進活動やスポーツ・レクリエーションの普及	多世代参加型行事への参加者数	23,078人	27,041人	25,000人	各校区・地区体育協会が、多世代参加型の行事や教室の開催に積極的に取り組むことにより、多くの地域住民がスポーツに親しむようになってきている。	A
総合型地域スポーツクラブの展開の支援	モデルクラブ創設及びその活動支援と検証	クラブ活動実践・検証	全市展開	全市展開	5モデルクラブの抱える課題やその解決方法について協議するとともに、各クラブの運営委員会等で指導・助言を行うことにより、健全な運営に向けた取り組みが進められている。また、全市展開に向け、市内5ブロックにおいて定期的に学習会を開催した。その結果、本年度末に新たに3クラブが設立した。	A
<p>●生涯スポーツ社会の実現に向け、各校区・地区体育協会の多世代で参加できる魅力ある行事の開催や総合型地域スポーツクラブによる地域住民のニーズにあった特色ある教室・イベントの開催により、多くの市民が参加し、スポーツに対する興味関心が高まっている。</p> <p>▲総合型地域スポーツクラブの活動の推進には、財源・会員・拠点施設の確保等が課題である。</p>						
②競技スポーツの振興						
各種競技団体の活動支援	県民体育大会の優勝種目数(種目数38)	23	18	24	各競技協会における継続的な強化と士気の高揚を図るため、計画的な練習計画を策定するよう助言するとともに強化練習会に出向き激励した。優勝種目数は目標に及ばなかったが、各競技において27の男女別優勝種目があり、競技力の向上は図られている。	C
選手の育成・強化と指導者の養成						
大学・企業などへのスポーツ振興の働きかけ						
<p>●県民体育大会での優勝数は目標には及ばなかったが、競技団体の研修会や強化練習会等により、競技力は着実に向上しており、31年連続通算56回目の総合優勝を飾った。</p> <p>▲大分国体で活躍した選手が他都市の中心選手として活躍しており、各競技とも苦戦を強いられているが、チーム力の底上げのため選手の育成をはじめとした更なる強化練習が必要となっている。</p>						

③指導体制の確立						
指導者の資質向上	指導者研修会の参加者数	340人	759人	550人	各競技団体のニーズに対応した研修会の充実を周知したところ、新たな指導者研修会が開催され多くの指導者の資質の向上が図られるようになってきた。	A
<p>●競技団体による積極的な指導者研修会により、指導者の資質向上が図られ、青少年の健全育成や競技力向上に反映されている。</p> <p>▲技術力向上に向けた研修会のあり方について検討する必要がある。</p>						
④スポーツ・レクリエーション施設の整備						
多目的広場や地域の体育施設の整備	体育施設の整備	検討	整備	整備	現状の体育施設の保守点検・整備を行った。	B
民間施設なども含めた体育施設の効率的な市民利用の促進	利用可能な民間所有の施設数	0	1	3	新たな民間所有の施設の掘り起こしはできなかった。	B
<p>●新たな体育施設の建設が難しいため、現有施設の保守点検・整備を行った。</p> <p>▲市内のスポーツ施設の利用状況は、飽和状態に近く、また、多様化する市民のスポーツニーズに対応するため、施設の新設や休遊地の有効利用が必要となっている。</p> <p>▲民間所有の体育施設は、地域に貸し出しを行っており、手続きの簡素化や利用時間拡大のための方策の検討が必要である。</p>						
⑤情報提供機能の充実						
施設情報の提供や予約機能の充実	施設紹介の充実及び利用手続きの簡素化	実施	実施	検証	ホームページの施設紹介の内容を更新した。	A
<p>●施設情報や体育的行事をホームページで積極的に知らせた。</p> <p>●現在の公共施設予約案内システムに対する市民からの要望はない。</p> <p>▲公共施設予約案内システムの登録者を増やす広報が必要である。</p>						

重点施策 (5) 本市教育を推進する教育委員会の充実

1. 目標

○教育委員には、地方公共団体における教育行政の責任ある担い手として、地域のニーズに応じた教育行政を主体的に企画し実行してることが、いっそう強く求められている。そこで、保護者や地域住民の期待にこたえる質の高い教育を実現していくために、教育委員会体制をより充実し、教育改革を推進する。

2. 取組の進捗状況

具体的な施策	指標の説明	19年度の状況	22年度実績	23年度指標	23年度に向けた22年度の進捗状況	評価
①教育委員会の活性化						
ホームページの充実	掲載内容の見直し	検討	実施	実施	教育委員会会議の掲載について、「審議結果」の掲載から「会議録」の掲載へと見直した。	A
市長事務部局との連携強化	教育委員と市長との意見交換会の実施	検討	実施	実施	意見交換会を1回実施した。テーマ「学力向上並びに体力向上について」	A
教育委員の視察・研修への取組	学校、各種教育施設の視察	1回	3回	2回	学校訪問(11月)、教育施設等の訪問(11月)、先進地視察(1月)	A
教育委員会会議への校長、園長、教頭などの輪番出席制の導入	説明員の増員	検討	見直し	※実施	校長等の輪番出席制の導入が困難である。	D
<p>●ホームページについては、トップページに教育委員会の項目を新たに設置し、市民が利用しやすいように変更した。また、教育委員会の会議録を掲載し、教育委員会における意志決定過程を市民に広く周知できるようにした。</p> <p>▲「教育委員が学校現場の状況についてより一層把握すること」を目的として、教育委員会会議への校長等の輪番制出席について、検討していた。しかし、1回に出席できる人数に制限があり、全学校(園)長が出席するまで5年程度かかることが判明した。</p> <p>このことから、1回に10名程度参加できる教育懇談会を計画し、年数回実施する指標へと見直しを実施した。この方法であれば、2年程度で全学校(園)長が参加でき、学校現場の状況を教育委員が把握することができる。</p>						

※見直した方法による実施

②教育委員会事務局の組織・機構の整備						
組織の機能や権限の弾力的運用への取組	市長事務局との検討	検討	検討・実施	検討・実施	文化財課において2係を廃止し、グループ制を導入した。	A
行政改革推進プランに基づく取組	業務執行方式の見直し	検討	検討・実施	検討・実施	西部共同調理場の稼働が平成22年7月から始まり、市内の中学校給食調理場は全廃となった。また、学校主事については、新たに6ブロックで正規職員に替え、嘱託職員を配置した。(累計18ブロック)	A
教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価などへの取組	点検評価方法の検討	検討	改善	実施	学識経験者の知見を活用し、点検・評価の方法や報告者の改善を図った。	A
<p>●教育委員会事務局においては、文化財課における2係を廃止し、高度化・多様化するニーズに対応するためグループ制を導入した。</p> <p>▲財務管理については、費用対効果のコスト意識をさらに高め、優先度の高い事業については積極的に事業を展開するとともに、依然として厳しい財政状況の中で、最小の経費で最大の効果が得られるよう適正な事務に務める必要がある。</p>						

第Ⅱ章 学識経験者による意見

○ 別府大学短期大学部学長 金子 進之助 氏

1. 教育委員会の活動および運営状況について

各委員多忙の中をよく市の教育行政の中核で働いていただいていると考えます。ただ2点ほど業務内容についてお願いしておきたいと思います。一つは今回の東日本大震災の件ですが、震災は3月11日に発生し、その後大分市の委員会が3回開かれています。その中で、大分市の小中学校をはじめとする教育界での災害対策の点検、あるいは避難訓練に関する議論はなかったのでしょうか。あるいは、審議事項だけが書かれていますので、話題としてまとめたものではなかったのか、記録されていないのかも知れませんし、また新年度に議論されることになったのかも知れません。今後の議題として検討をお願いしたいと思います。

2点目は、視察結果についてです。本市の小中学生の学力・体力について、市民の関心が強い話題です。これに関しては様々な資料をご検討いただいたり、先進地方の視察を行ったりしておられるようですが、他市の取組から学ばれたことを市民に伝えられるような仕組みもお考えいただけるとよろしいのではないのでしょうか。

2. 「大分市教育ビジョン」点検・評価結果について

全体的に見てA B評価を合わせると約9割が良い評価なので、事業は順調に遂行されていると判断して良いでしょう。D評価の一つは「教育委員会会議への校長・園長・教頭などの輪番出席制の導入」ですが、これについては1回に出席できる人数に制限があるために方式を改めたという反省がなされており、評価が役立ったと言えるのではないのでしょうか。C評価の中にも学力面では全国平均にあるが、当市の目標値に達しなかったためにあえてCとしているものもあって、少し酷な感じがしないでもありません。家庭教育学級の開設や小学校入学前の子供を持つ保護者が学ぶ「子育て講演会」の開設数が目標値に達していないためにC評価を受けていますが、インターネットの普及もありますので、講演会の開催という従来の発想でよいのかという検討や講師の選定、あるいは講師の講義形態や内容、参加対象者のニーズ、参加対象者の状況（稼働・他の子どもがいるために保育の用意が必要）など検討の必要があるのではないのでしょうか。このことは他のCランクの評価項目についても、お考えいただきたいと思います。

前回に比べて、参加者の感想など、評価に質的評価が若干加わり少し変化が見えたことは嬉しい限りです。事業評価も、目標回数を行ったという量的なものだけでなく、今後も利用者がその行事をどのように受け止め、実際生活に変化が出たかどうかと言うところまで評価できるとよろしいと思います。

学校施設の耐震化の推進はA評価でした。東日本大震災を受けて、目標値の見直しなどの必要はないかということも再点検する必要があるかも知れません。市民としては気になるところです。また震災に備えての訓練や、震災対策についても、市民にお知らせいただけるとありがたいです。特に学校現場での被災時を想定した訓練、あるいは教職員の防災教育など、今回の東北地方における教訓を踏まえたうえで、大分市の計画の進捗状況とともに、今この時点での新たな対応目標も示されるようにご検討いただけるとありがたいと思います。

○ 大分県立看護科学大学学長 草間 朋子 氏

1. 教育委員会の点検・評価

定例と臨時会議をあわせて 21 回の会議が開催され、さらに学校訪問や研修会への参加等、教育委員会としての責務を果たしていただいている。臨時会議の数が定例に匹敵するほど多いが、審議案件の一覧表をみる限り、臨時案件として取り上げる必然性が分かりにくい。計画的に定例会議で審議できるようにすることにより、教育委員、事務局の負担も軽減され、効率化が図られるのではないかと思われる。平成 22 年度からは教育委員会の会議の議事録をホームページで公表するなど、市民に対する委員会の活動の「見える化」を図る努力をしている。

2. 「大分市教育ビジョン」点検・評価

5つの重点政策 103 項目について、4つの評価基準（A、B、C、D）にしたがって評価し、24 項目以外は「計画どおり順調に進んでいる」（A 評価）との自己点検・評価結果であった、この自己点検・評価は、平成 19 年度の状況および平成 23 年度の達成指標としてあげられている数値目標と比較して行われた評価であり、客観的であり妥当である。このような量的な評価は、市民等にとって、一見、分かり易いが、平成 20 年、21 年度と毎年行われてきた点検・評価の結果に基づいて、行政が改善に向けて行ってきた努力の結果は見えにくい。今年度の自己評価・点検では、一部の重点政策では、「参考」の項目を設け、行政が行った取組に対する参加者の意見等も記載されている。今後は、具体的な取組に対する質の評価にも結びつく、このような工夫をしていくことにより、行政の取組に対する市民の理解を得易くなるものと思われる。

「B」「C」「D」評価であった項目（このような項目の多くは、3年間（平成 20、21、22 年度）の評価が同じ傾向にある）については、グレードをつけて行政として改善に向けて取り組む必要がある。とくに、「喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の充実」は、時代・社会のニーズを考えると、量的評価の結果を早期に「A」にさせていただく必要がある。「家庭教育学級」等の取組に関しては、数値目標達成だけではなく、参加者のニーズを反映した「参加型」の具体的な取組を行っていくことが必要とされる。

学校教育の充実、子どもをもつ親の最大の関心事である。行政、学校、家庭等の連携・協働なくして学校教育の充実に対する市民の満足度を高めることはできない。このためには、情報を共有することが極めて重要である。大分市の教育事業に対する自己点検・評価の結果が、一人でも多くの市民の目に触れ、大分市の学校教育の充実に向けての情報になることを期待している。

○ 国立大学法人大分大学教育福祉科学部教授 山崎 清男 氏

1. 教育委員会の活動及び運営状況

教育委員会制度は戦後教育改革の中で成立したものであり、地域住民の「声」を教育行政に反映させる制度であるともいえる。このことをふまえながら、定例委員会議を 12 回、臨時委員会議を 9 回開催し、その内容も多岐にわたる教育問題を取り上げ、委員相互の共通理解をはかりながら教育諸問題の解決に向け取り組んでいる姿が読み取れる。さらに教育委員が先進地視察や自己研修・情報収集、現場管理職との意見交換等を通して大分市の教育問題に積極的に取り組む活動を行い、教育行政に反映させようとしている点は、教育委員会制度の形骸化が指摘されている今日、評価すべき取組である。

たしかに教育委員自身による多くの活動が展開されているが、活動自体が市民に対して分かりやすく展開されているかという疑問は残る。換言すれば、教育委員会会議の審議や教育委員の活動が、政策立案や策定にどのように活用されているか見えにくいようにも思われる。できるだけ、市民に理解されやすいような方策が考えられる必要があるだろう。

2. 「大分市教育ビジョン」点検・評価について

「大分市教育ビジョン」の点検・評価は、大きく 5 項目を対象に行われている。全体的観点から、意見を述べることとする。23 年度に向けた 22 年度の取組の進捗状況は、多くの項目が「A. 計画どおり順調に進んでいる」である。その意味では、目標達成に向けた努力がなされていると理解できよう。また「進捗状況」は文章できちんと説明され、全体的に理解しやすい。項目数は少ないが「C. 計画がやや遅れている」という項目もみられる。そのような項目の具体的な施策に関しては、さまざまな視点から検討し問題点の究明と目標達成への努力が求められる。その際、いわゆるマネジメント理論の活用が望まれる。

たしかに目標達成に向けて具体的な施策を掲げ、多くの施策は高い評価を得ているが若干の問題点も指摘できるように思われる。「指標の説明」を数値で示し、その数値を「達成目標」とした場合、一定の数値をクリアすれば目標が達成されたことになり進捗状況に対し高い評価が得られる。重要なことはその数値の内実の検討である。つまり単に数値目標をクリアすることのみをもって目標達成と考えるのではなく、どのような状況から目標が達成されたと理解するのか十分検討する必要があるように思われる。ところで「取組の進捗状況」の中で、平成 22 年度の成果と課題がきちんと示されているが、このような記述は内容を理解する上で手助けになる。

昨年度の「点検及び評価」と比較した場合、今年度は「進捗状況」にいつその改善がみられ、大分市教育委員会の教育行政推進に対する積極性がうかがわれる。すでに指摘したことであるが、「教育委員会無用論」や「教育委員会の形骸化」が論じられている中で、教育委員会の必要性を示すためにもこのような「点検・評価」の積極的活用を望みたい。